

事業報告書

2020年度（令和2年度）

2020年（令和2年）4月 1日から

2021年（令和3年）3月31日まで

滋賀県近江八幡市市井町177番地

学校法人 ヴォーリス学園

2020年度事業報告書

はじめに

生徒・児童・園児数の推移については、「少子化」「人口減」が進行する中、2020年度当初は、高等学校1,183名、中学校415名、小学校40名、エデュケア部門1,096名（放課後児童クラブ4ヶ所357名を除き）、合計2,734名（5月1日調査）。それが年度末には、高等学校1,155名、中学校412名、小学校40名、エデュケア部門1,105名、合計2,712名。そして2021年度は、高等学校1,213名、中学校433名、小学校27名、エデュケア部門1,074名（放課後児童クラブ4ヶ所353名を除き）、合計2,747名と史上最大規模でスタートすることができました。

県内他私学の定員充足状況は、高校で半数、中学校ではほぼすべてが定員割れと厳しく、今後、県内外の競争がいよいよ激しくなるでしょうが、公教育としての私学のあり方が厳しく問われていることも自覚しなければなりません。

また2019年度末から始まった「新型コロナウイルス」の感染拡大は、結局、収まることなく、2021年度に持ち越され、今なお世界中に深刻な影響を与えています。「コロナ禍」が続くなか、「オンライン授業」の拡がり等の「高度技術化・情報化」は加速し、「グローバル化」は質的变化を迫られています。

ヴォーリズみらい構想

2020年度の最重要事業と位置づけた「ヴォーリズみらい構想」プロジェクトですが、年度前半に「第一次マスタープラン」を作成しました。それは、学園の総力を結集し、地域の方々、企業、大学等との連携をはかりながら、「地方創生」や「SDGs」に寄与する事を目指すことを確認し、そのうえで、プロジェクトの方向性を明らかにしました。以下、その進捗状況です。

(1)土地・資産を活用して、事業・収入の多様化を進める。

浅小井校地では、小学校の教育に最後まで精一杯取り組むとともに、今後の有効活用について検討し（仮称「ヴォーリズスタディーセンター」）、「SDGs」の活動拠点とするべく準備を進めています。現在、地域の様々な団体や企業と、その活用について協議をしています。いよいよ2021年度から少しずつ事業をスタートする段階に達しました。

(2)「地域スポーツ」の拠点事業等を展開し、地域に貢献する。

浅小井校地グラウンドの拡張・人工芝化、北之庄校地グラウンドの整備等の事業を進めています。中高のクラブ活動以外にも、サッカー協会との連携事業など地域スポーツの拠点としての活用を準備しています。早速、滋賀YMCAへの貸出事業が始まりました。

(3)保有する文化財も有効に保存・活用し、地域・学園の「ブランディング」を図る。

公益財団法人近江兄弟社の「ヴォーリズ記念館」と併せて、ハイド記念館・教育会館を「地域の宝」として、その保存・活用方法について検討しています。2021年度にそのための「保存活用推進協議会」を近江八幡市・商工会議所・観光物産協会等地域の皆様のお力をお借りし、立ち上げます。また「まちや倶楽部」を中心とした地域の商店街や滋賀県立大学「ヴォーリズクラブ」と連携し、「ヴォーリズストリート構想」を進めています。

創立100周年に向けて

2022年に迫った学園創立100周年には、「ヴォーリズムみらい構想」を明確に内外へ公表するとともに、次の100年の歩みの方向を示したいと思います。そのために提起している三つの課題の到達点について、整理します。

(1)教育改革を進め、「ヴォーリズムみらい構想」ときちんとリンクさせること。

ヴォーリズムみらい構想は、学園の中期展望ですから、何より小中高やエデュケア部門（こども園・保育園等）の教育・保育展望策定が軸であるべきです。そのキーワードとして、現時点で俎上に上げているのは次の4点です。

- ①いのちを大切にす教育
- ②リベラルアーツ教育
- ③「オン・キャンパス」「オン・ライン」「ハンズオン」
- ④「グローバルSDGs人財」の育成

まずは、「『いのちを大切にす教育』推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、答申をまとめました（HP参照）。今後、各校園で、カリキュラム化・具体的実践の積み上げが進むことを期待します。

(2)中高・エデュケア部門の施設整備計画

「教育づくり」「教育改革」のステージとしての施設整備計画（高校校舎の「建て替え」もしくは「改修」・新校舎建設等）の決定が急務です。エデュケア部門では安土保育園建て替えが動き出しましたが、金田東保育園老朽化の課題は方向が見えていません。併せて周辺自治体より新規展開の依頼も複数ありますが、早急に人口動態・保育ニーズを考慮し、対応を決定しなければなりません。

(3)プロジェクト推進を支える学園の本部機能の強化について

学園組織体制検討委員会で議論を重ね、学園の「部」（広報部・体育部・渉外部・国際部）を廃止し、さらに本部改編委員会を立ち上げ、本部機能の再編強化を図ることとしました。2022年度よりの法人本部とエデュケア本部の統合に向けて検討を始めました。

理事長 藤澤俊樹

I. 学校法人の概要

本法人は「イエス・キリストを模範とし、教育基本法および学校教育法に従い、学校教育を行い、自己統制力のある自由人、独立自主の創造性に富む人、知性豊かな国際人を育成すること」を目的としております。

2022年度における本法人の概要は、以下のとおりであります。

1. 設置する学校等

近江兄弟社高等学校 全日制課程 普通科・国際コミュニケーション科
近江兄弟社中学校
近江兄弟社小学校
近江兄弟社ひかり園
もりの風こども園
そらの鳥こども園
金田東保育園（本園・分園）
安土保育園（本園・分園）
ふるたか虹のはし保育園
安土こどもの家（指定管理）
守山児童クラブ室（物部・小津・玉津）（指定管理）

2. 沿革

- 1905年 ウィリアム・メレル・ヴォーリズ、滋賀県立商業学校英語教師となる。
商業学校生徒を対象にバイブルクラス、YMCAを組織。吉田悦蔵ら同居。
- 1907年 八幡YMCA会館（現アンドリュース記念館）建設。悦蔵と共同生活。悦蔵、商業学校卒業。ヴォーリズ、同校退職。八幡に留まる。
- 1909年 大津・米原に鉄道YMCA設立。
- 1917年 近江ミッション所有地を開放してプレイグラウンドとする。
- 1919年 メレル・ヴォーリズ、一柳満喜子と結婚。
- 1920年 プレイグラウンドに清友園と名付け、ヴォーリズ満喜子が園長となる。
- 1922年 清友園幼稚園開設。園長・ヴォーリズ満喜子。戦後、近江兄弟社幼稚園と改称。
- 1923年 米原シオン幼稚園開設。園長・吉田清野。42年閉鎖。
吉田悦蔵著『近江の兄弟ヴォーリズ等』出版。跋文、賀川豊彦。
- 1930年 ヴォーリズ、Colorado College L.L.D（名誉法学博士号）授与される。
- 1931年 ハイド一家の寄付により幼稚園舎（現ハイド記念館）、体育館（現教育会館）建設。
- 1933年 吉田悦蔵ら近江勤労女学校設立。35年、近江兄弟社女学校に改称。戦後、新制中・高等学校（近江兄弟社中・高等学校）になる。近江向上学園設立（女子従業員教育、学園長・佐藤安太郎、西村関一、吉田政次郎）。戦中、女子青年学校、戦後、近江兄弟社高等学校定時制部、78年廃部。
- 1935年 幼稚園の分園事業として大林公衆浴場二階において、大林の幼児のために保健衛生を主とした生活訓練を開始、これを「大林こどもの家」と称した。翌年、慈恩寺町に活動場所を移し、39年から本園の幼稚園に合流。このころまでに、堅田・今津・水口幼稚園、八日市託児所、近江家政塾、八幡英語学校、江西義塾、農村青年学校、清友園教育研究所等多様な教育事業展開。

- 1940年 近江兄弟社図書館開設（吉田悦蔵館長）。75年近江八幡市に移管。
- 1941年 ヴォーリズ帰化、一柳米来留と名のる。太平洋戦争始まる。
- 1942年 女学校長・吉田悦蔵召天。以後校長、高橋虔、檜山嘉蔵。
- 1942年 時局により向上学園閉鎖、近江兄弟社女子青年学校に（校長・村田幸一郎）。清友園幼稚園、大林こどもの家、近江兄弟社女学校などをまとめて近江兄弟社学園と称し、檜山嘉蔵が学園長となる。
戦時中、一柳一家は軽井沢にて暮らす。メレルは宣教師らと教会・学校建築計画に余念なく、東京大学にも出講。満喜子は軽井沢幼稚園・啓明学園などの運営を委託される。戦後帰幡。
- 1947年～近江兄弟社小・中・高等学校・同定時制部を順次整備（一柳満喜子学園長）。
- 1950年 中高校舎建設、67年焼失。68年新校舎建設。2007年改築（現学園本館）。
- 1951年 学校法人近江兄弟社学園設立。初代理事長・一柳米来留、学園長・一柳満喜子。
- 1954年 一柳米来留理事長、藍綬褒章、58年近江八幡名誉市民、61年黄綬褒章受章。
- 1963年 一柳満喜子学園長、教育功労者として藍綬褒章受章。
「小中学校を廃止して高等学校の充実を計る」と発表したのが、反対運動で中止。希望館建設、2010年改築（現希望館）。
- 1964年 財団法人近江兄弟社と経営分離。校名変更検討・保留。一柳米来留理事長召天。
- 1969年 一柳満喜子理事長・学園長召天。以後、理事長、尾崎政明、西川仲二、西村関一、山本肇、草間修二、西村与左衛門、山田眞、仁村昭司、道城献一、岩原侑、池田健夫。学園長、浦谷道三、尾崎政明、草間修二、大橋寛政、仁村昭司、道城献一、奥村直彦、大門義和、中島修、佐野安仁、道城献一、池田健夫。
- 1972年 学園創立50周年を記念して体育館建設（ヴォーリズ記念体育館）。高校海外研修旅行（韓国）開始、90年より分散型に変更。
- 1974年 株式会社近江兄弟社会社整理、75年より財団補助金廃止、私学助成制度開始。
- 1978年 高等学校定時制部廃止。
- 1979年 高校新校舎建設（現西館）、4学級制に対応。
- 1980年 中学校2学級制に。84年から3学級制、92年から4学級制化。
- 1983年 中高一貫コース開始、翌年、特進コース開設。93年コース制解消。
- 1988年 三輪英樹五輪出場。以後、伊藤みき、乾友紀子出場。
- 1991年 学園創立70周年を記念して新図書館棟建設（現捜信館）。
- 1992年 高校女子バレーボール部「春高バレー」に初出場。93年野球部が甲子園初出場。以後、全国大会出場クラブ多数。
- 1994年 北之庄校地取得、95年グラウンド造成（ヴォーリズ記念グラウンド）。
- 1997年 文化体育交流センター建設。
- 1996年 シャロン館建設（現高校エクステンションセンター）
- 1998年 小学校2学級制にするも2002年中断。
- 2000年 ハイド記念館・教育会館が有形文化財に登録される。高校新校舎建設（現東館）。6学級制に対応。
- 2001年 高校に単位制課程を設置（希望館）。05年北館建設、単位制2学級化に対応。
- 2002年 近江兄弟社総合サービス有限会社設立（スクールバス、営繕、警備）。「21世紀グランドデザイン」策定、17年終了。
- 2003年 幼稚園新園舎建設。近江兄弟社こどもセンター設立。
- 2004年 エンジェル保育園開園。
- 2007年 星のひかり保育園開園。学園本館建設、5階にヴォーリズ平和礼拝堂設置。第

- 1回「いのちと平和の集い」（以後、毎年開催）。学園宗教センター開設。
- 2008年 金田東保育所運営開始。
- 2009年 「ヴォーリズ展 in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。
- 2010年 安土保育園運営開始。安土こどもの家指定管理者として運営開始。新希望館建設、ICC 発足、翌年、高校国際コミュニケーション科認可。武道場建設。
- 2011年 守山市にもりの風こども園開園。浅小井校地取得、中高体育施設・小学校舎整備。
- 2013年 近江兄弟社ひかり園運営開始。
- 2014年 小学校を浅小井校地に移転。ヴォーリズ没後50年記念行事「ヴォーリズメモリアル in 近江八幡」市民実行委員会により開催。
「ヴォーリズ建築を巡る韓国旅行」主催。
- 2015年 法人名を「学校法人ヴォーリズ学園」に変更（以後、理事長・池田健夫、藤澤俊樹。学園長・道城献一、池田健夫）。
- 2016年 弓道場移転。第10回「いのちと平和の集い」（以後、隔年開催）。18年度近江兄弟社小学校児童募集停止発表（12月）。
- 2017年 東近江市にそらの鳥こども園開園。メインアリーナ竣工。サブアリーナ改修。
- 2018年 「近江兄弟社こどもセンター」を「ヴォーリズ・エデュケアセンター」に変更。
ヴォーリズ・コーチングアカデミー開設。
- 2019年 「第一次フロンティアプロジェクト」から「第二次フロンティアプロジェクト」へヴォーリズみらい構想準備会を立ち上げ、委員会スタート（1月23日）。
高校国際コミュニケーション科定員増（2学級）。守山市にふるたか虹のはし保育園開園。一柳満喜子没50周年記念事業実施（8月～11月）。
学校法人関西学院と近江兄弟社グループが連携協定締結。
- 2020年 「ヴォーリズみらい構想」策定。COVID-19による休校（4～5月）。
- 2021年 浅小井校地グラウンドを人工芝化。宗教センターを「ヴォーリズ・キリスト教平和センター」に改称。

3. 設置する学校等の定員および生徒数の状況（2020年5月1日現在）

校 園	定員数	生徒・児童・園児数
高等学校	1,120名	1,183名
中学校	456名	415名
小学校	(432名)	40名
こども園	565名	580名
保育園	474名	516名
学 童	370名	357名
合 計	3,382名	3,091名

4. 役員および教職員の概要等

①役員一覧（2020年5月1日現在）

理事長 藤澤俊樹
 常任理事 池田健夫 小野春男 松田 保 池田健一 中島 薫 小森康三
 安川千穂 奥 達夫 山崎 直
 理事 山村 徹 上野昌志 蔭山孝夫 筈井昌彦 尾賀康裕
 監事 小西 勉 川森勇次
 評議員 46名

②教職員数（2020年5月1日現在）

法人本部	理事長、学園長、学園長代行、副学園長、専務理事・事務長、事務次長、専任職員6 エデュケアセンター事務部長、専任職員8					
	校長	副校長	専任教員	兼任教員	専任職員	兼任職員
高等学校	1	3	76	21	1	19
中学校	1	教頭含2	25	12	0	9
小学校	1	教頭1	5	3	0	5
こども園(3)	園長3	副園長3	83	0	5	50
保育園(3)	園長3	3	0	0	92	54
学童(4)	0	0	0	0	8	38

II. 各校園事業報告

1. 高等学校

募集活動では、2021年度県内高校入試で定員を確保したのは県内私学(全日制課程)10校中、本校を含む5校となりました。滋賀県下で中3生が約500名減少する上に、新型コロナウイルス感染症の影響で従来形式での募集活動が行えないという厳しい状況下でしたが、YouTubeを利用したオンキャンパスでのオープンキャンパスの実施など、できる限り受験生・保護者に学園を観ていただく工夫を行い、前年度を超えるオープンキャンパス参加者を迎えることができました。結果、総定員390名に対し407名の入学者となり、2020年度募集に引き続き県内高校最多の入学生を迎え、生徒総数も1,214名(2021年4月1日現在)となりました。定員確保の要因は8割を超える専願率の高さと、湖東地区の公立普通科の定員減による影響で併願歩留まり率が8.5%と高まったことにあります。また学内・学外を合わせた推薦入学者が130名(定員の33.3%)あったことも要因です。公立高校の入試倍率の高い湖南地域以外で定員を確保するためには、引き続き専願率を高める教育内容の充実と募集対策、とりわけ近江兄弟社中学校との連携強化が求められます。

クラス別募集状況では国際コミュニケーションクラス(ICC)が定員が70名に対し43名の

入学と大きく定員を下回りました。新型コロナウイルス感染症問題の長期化は、高等学校教育においても特に国際交流の分野に大きな影を落としています。ICC に進学しても留学に行けるかどうかわからない、留学生が来日できず留学生との交流も期待できないなどの不安材料が少なからず ICC の生徒募集に影響したものと考えます。また募集活動において留学生の姿や国際交流活動が見せられなかったこと、2020 年度募集における ICC2 クラス化初年度のようなインパクトがなかったことも影響したと考えられます。

単位制ヒューマンネイチャークラス (HNC) は定員を充足する 80 名の入学者を得ました。オープンキャンパス段階での参加者延べ人数の増加と内容の工夫がそのまま出願にまで結びつき、第 3 回体験入学では倍率の高い選抜試験となりました。

アーツサイエンスクラス (ASC) ・グローバルクラス (GLC) ではクラブ活動の活性化により、近江兄弟社高校で学業とクラブ活動の両立を目指そうとする生徒の増加傾向が続いています。2021 年度入試から推薦 S 対象クラブに女子新体操部・男女柔道部・女子サッカー部も加わり、定員確保に貢献しました。

教育活動では、2020 年度は入学式は予定通り行えたものの、直後から約 2 ヶ月間の休校を余儀なくされました。1 年生から導入した iPad 配布も出来ない状態での休校措置でしたので、休校当初は各家庭への課題郵送や電話連絡を中心に生徒の状況把握に努めました。合わせて分散登校や Web による動画配信などの準備を行い、4 月下旬より実行に移しました。これらの取り組みは高校における ICT 教育推進を否応なく進めることとなり、登校再開後の教育活動にも活かされました。学校行事の大幅な見直しにより、年間授業時間数については各学年ともに予定数以上の確保ができました。ただ学園祭準備期間や長期休暇を大幅に削減し、授業時間を確保したことで、生徒の負担は極めて大きなものとなりました。特に 3 年生にとっては春季高体連・高文祭の中止など、高校生活を通して打ち込んできた成果の発表の場が失われたことは大きな喪失感を生みました。それらをできるだけ解消するように学園祭は時期をずらし、体育の部・文化の部ともに部活動の発表の機会と位置づけて実施しました。困難な状況下でも最大限の可能性を模索した取り組みは、生徒にもよい思い出の 1 ページとなりました。高校 2 年生の海外研修旅行は、時期をずらしての実施も模索しましたが諦めざるを得ず、ASC・GLC・HNC についてはクラスの交流を深める目的で 1 泊 2 日の近畿圏内での小旅行を実施しました。準備期間が短かったため教育目的を明確に定めることが十分に出来ませんでした。楽しく過ごせたひとときとなりました。

2020 年度は 4 クラス制度 (ICC・ASC・GLC・HNC) が完成して 2 年目となり、随分と各クラスの特色ある取り組みが充実しました。指導部長やクラスチーフを中心に前年度までの到達点にさらに工夫や改良を加え、これまで以上に各クラスの教育目標に即した内容となりました。またそれら 3 年間を通じた活動の集大成として発表の機会が設けられたり、レポート集が作成されて成果の蓄積が進んでいます。これらが後に続く後輩への励みになり良い意味でのクラスの縦の繋がりが出来つつあり、クラスへの帰属意識が高まっています。

ここ数年進めてきた授業改革の結果、多くの授業でアクティブラーニングが実践され、主体的に学ぶ姿勢や仲間と協働して探求する力が養われています。生徒授業アンケートにおいては授業に対する満足感は概ね高い結果を得ましたが、授業をきっかけに興味関心を高め、さらに学習に取り組もうとする姿勢の育成が必要です。また 2020 年度もエクステンションプログラム土曜講座への参加者がさらに減少しました。クラブ活動との兼ね合いが大きな要因です。クラブ活動の盛んな本校としての構造的問題もありますので、2022 年度からの実施を目指してプロジェクトチームを立ち上げ、全校生が iPad を持つことを前提にしたエクステンションプログラムの再構築を図ります。また「本物との出会いプロジェクト」や「インターアクトクラブ」等、教科外の活動も 2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け大きく制限されましたが、

今後は地域や大学等の連携を強化する中でさらに活性化していきます。

進路状況では、大学入試共通テストの導入など、2021年度大学入試制度が大きく変わりました。四年制大学への進学率が81.8%（2020年度73%、2019年度68%）と初めて8割を超え、合格者総数も488件（2020年度392件、2019年度約274件）と、大学入試においては過去最高の実績を残しました。その結果、短期大学進学率2.3%、専門学校12.0%、浪人1.4%、その他1.4%はいずれも大幅に減少しました。指定校推薦による合格者数は152名（2020年度186名）でしたので、公募推薦入試や一般入試で健闘した結果です。特に最後まで諦めず3月に進路を決定した生徒も多くいました。大学の募集定員厳格化がやや緩やかになった影響もありますが、混乱した高校生活と不透明な入試改革初年度という条件の中、生徒諸君の頑張り、根気強く生徒を指導し励まし続けた教員の姿勢の賜物です。

生徒異動では、2020年度も残念ながら25名（2019年度30名、2018年度38名）の転退学者（一家転住による転学を除く）がありました。退学防止は高等学校の大きな教育課題の一つです。学年制の退学者は特別支援教育コーディネーターや指導部長を中心としたチーム対応により減少していますが、単位制の年度末における長期不登校生の転退学者数が相当数を占めます。その半数は通信制高校への進路変更です。単位制では2020年度より教育課程にNHK学園通信教育を導入し、履修生徒の約75%が単位を取得し、退学者の減少に一定の歯止めをかけることができました。

クラブ活動では、年度前半の大会がほとんど中止となりました。6月の登校再開以降は感染拡大防止のための新しいクラブ指導ガイドラインのもとクラブを速やかに再開し、3年生にとっては最後の公式大会を奪われた者もありましたが、各クラブで工夫をして引退の機会を設け、その後の進路に向けた学習への転換を図りました。秋以降は感染拡大防止に努めながら徐々に練習試合や大会が再開されました。それに伴い、近畿大会や全国大会に出場したクラブも多くありました。全国大会出場クラブはスキー・スケート・男子ハンドボール・卓球（男女）・英語ディベートの5クラブ、近畿大会出場はスキー・男子ハンドボール・バドミントン（男女）・弓道（男女）・男子柔道・水泳（男女）・卓球（男女）・陸上（男女）の8クラブになりました。2020年9月には文部科学省・スポーツ庁・文化庁から「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」文書通知がなされました。今後はヴォーリズ・コーチングアカデミーとともに中高教員研修も行い、学校への誇りや帰属意識を高めるヴォーリズ学園らしいクラブ指導のあり方について模索していきたいと思えます。その中でクラブ指導における中高の連携強化についても取り組みます。

校務運営では、2020年度は高校運営委員会で決定した内容を教職員会議で合意して行動するという形が定着し、スピード感を持った運営ができました。このことは休校措置をはじめとする対応に活かされました。また4クラス（ICC・ASC・GLC・HNC）を優先した縦型校務運営は、各クラス指導部長の指導の下、スムーズに運営がなされましたが、細かな分掌分担、特に生徒指導の面において担当者が錯綜する事があり、2021年度分掌決定において学年生徒主任を配置して改善を図ることとしました。また運営委員会で議論した内容が各部や学年・クラスでの会議で十分に共有できていなかった面もありましたので、全職員の意見が運営委員会に届けられるように改善策を講じたいと思えます。

2020年度、学校づくりの軸としての「いのちを大切に教育」をより具現化するために、「いのちの花」として身につけさせたい力を具体的に示しました。2022年度は、学園創立100周年、高等学校では新教育課程初年度の節目の時となります。「いのちの花」の示す、「ともに生きる」力を育む教育に全力を尽くし、高校教育の更なる発展を目指します。

2. 中学校

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な教育活動が制限を受けました。4月7日始業式、入学式、4月8日の登校日後、2ヶ月の休校となりました。新入生には3月20日の新入生オリエンテーションでタブレット端末を配布でき、入学までの期間タブレット端末を使つての課題をするなど、それぞれが操作に慣れる期間ができ、4月8日の登校日に必要な操作を確認して休校期間に入りました。休校期間中は朝の礼拝や学習指導など、生活のリズムに留意してリモートによる指導を進めることができました。授業動画を観て学習したり、家庭科の課題で「お手伝い動画」をお家の方に撮ってもらい提出したり、近所の自然観察レポートを提出したり、また、まだしっかり顔を合わせていないクラスメイトと自己紹介をするなど交流も含めて様々な形でタブレット端末を活用できました。そしてこうした取り組みが2・3年生においても家庭にあるICT機器や携帯電話などを使つてのリモート授業の取り組みに影響を与えました。

6月の再開後も様々な制限のなかでの学校生活でした。マスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンス、施設の消毒等、保護者の協力も得て、健康管理と感染防止対策に努めました。このような状況のなかで、生徒たちも「自身の健康を守る」、「周囲の人に配慮する」、そして「感謝する」ことを学びました。また学園では『命を大切にす教育』を教育の柱とすることを確認し、生徒一人ひとりが「安心安全であること」「尊重されること」「居場所があること」に留意し、環境を整え、生徒たちが共に生きるための様々な力を身につけることができるよう支援していくことが確認されました。

2020年度は「中学校教育改革」の推進を図りました。ICT教育においては、1年生は一人1台のタブレット端末を活用して、2・3年生は学校で80台のタブレット端末を用意し各授業で活用しました。授業支援アプリを導入する教科もあり教育効果を高めました。また、研修や事例検討などの情報共有の機会を多く持ち教職員のスキルアップに努めました。

カリキュラムにおいては、英語教育の充実と探究学習の推進に向け検討を進めました。英語学習においては言語習得の流れを大切にし、英語5技能を習得するラウンドシステムの研究を進めました。しかし、新カリキュラムの2021年度の実施を予定して準備を進めてきましたが、時程の変更等で学内一致に至らず、2022年度実施に向け継続審議としました。

「新学習指導要領」の2021年度実施に向け各教科で準備検討を進めました。「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」を意識した授業展開、探究型学習の研究、また評価についても検討しました。

他校園との連携の取り組みとして、近江兄弟社高等学校ICCとの連携を図るべく英語教育の充実、ASCやGLCでの探究型学習へと繋ぐ中学校での探究学習検討を進めました。今年度も内部進学生徒を対象に高等学校と協力し、入学前プログラムの実施ができました。また近江兄弟社小学校の児童たちに中学校施設で中学校の教員が授業を行ったり、小学校の行事に中学生が参加するなど今年度も様々な連携ができました。

2021年度生徒募集は、感染症対策をとり、制限の中での活動でした。オープンキャンパス参加者数では421名（前年度478名）、模擬試験の参加者数は329名（前年度353名）と若干の減少となりましたが、今年度も専願重視を公言し、自己推薦S型定員70名、A型定員を50名として募集活動を進めました。結果としてS型の受験者数が78名（昨年度72名）、A型の受験者数が37名（昨年度30名）と微増となりました。近江兄弟社小学校からの内部進学者は8名でした。2021年度の募集活動の結果、入学生は149名でした。本校を第1希望として入試に多くの受験生が臨み、一定数を確保できたことは評価したいと考えます。今後の募集活動では、本校の魅力、特に生徒の活動や取り組みの様子を積極的に発信する工夫するとともに、教育内容の充実をさらに進めていく必要性を感じ、次年度へ向けての検討課題とします。

3. 小学校

2020年度の児童数は4・5・6年生合わせて40名となりました。4月7日に始業式を行い新年度をスタートしましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い4月9日から5月6日まで臨時休校の措置をとることとなりました。さらに臨時休校期間を延長し、実際に学校が再開できたのは6月1日からとなりました。

学校再開後も、感染拡大については予断を許さない状況で、新しい生活様式の中での窮屈な学校生活を余儀なくされましたが、仲間と一緒に過ごすことができるのは子どもたちにとって何よりの喜びであり、元気に学校生活を送っている子どもたちの姿に教職員も励まされました。

また、そのため、大幅に学校行事や年間計画を見直すこととなりました。

5月に予定していた「運動会」は9月に延期、また、6年生「修学旅行」は、大型観光バスをチャーターするなどできる限りの感染防止対策を取る中、予定通り2泊3日で実施しました。しかし、「朗読会」「コパン水泳授業」「6年びわ湖一周サイクリング」「6年見学旅行」「学習発表会」は中止、「4・5年見学旅行」は行き先を県内に変更し実施、「4年宿泊体験行事」は宿泊なしで2日間「自然体験学習デー」として実施、2020年度が最終となるニュージーランド短期留学も中止としました。さらに、夏季休業期間を8月8日～17日の10日間に短縮、冬季休業期間を12月25日～1月6日の13日間、春季休業期間は3月20日～とし、また、9月からは土曜登校日を月2回とし授業時間の確保に努めました。

5月には、休校期間中に担任と子どもたち、また子ども同士がwebを通じて繋がるツールとして「ロイロノート・スクール」を導入し、教材の配信、課題の提出ができるように整えました。

コロナ禍であっても、感染防止対策に万全を期しながら、できることを工夫しながら教育活動をすすめるようにしました。

「運動会」への中学生の参加・協力、理科や情報の連携授業の実施、近江兄弟社小学校6年生児童のための近江兄弟社中学校の学校見学、体験授業や学校説明会、模擬試験解説などを実施、近江兄弟社中学校との連携を強めることができました。

また、「運動会」において高校吹奏楽部や女子テニス部の参加・協力の他、「キッズテニス」「キッズバスケ」など、近江兄弟社高校との連携を強めることができました。

また、学校行事中心に、異学年・異年齢集団での活動を取り入れ、コミュニケーション能力を育み、隣人愛の精神を培えるようにしました。

「紅組」対「白組」の二色対抗の運動会でしたが、勝っても負けても仲間の頑張りを讃え合える「ノーサイドの精神」に満ちた学び多きものになりました。お手紙と花の種を付けて飛ばした「エコ風船」、愛知県瀬戸市の方からお手紙をいただき大いに励まされました。また、PTA種目は役員さんたちの企画・運営で大いに盛り上げていただきました。

12月「クリスマス礼拝」は保護者の参観を取り止め、午前中プログラムに縮小して実施しました。礼拝の中では、6年生製作による影絵を映写し、聖書朗読・讃美を通して主イエス・キリストのご降誕をお祝いすることができました。

2021年度は全校児童数5～6年生27名（転入生2名を含む）となりますが、少人数で寂しく終わるのではなく、少人数だからこそできることは何かを考え、わくわくする感動的な小学校生活になるよう、子どもたち一人ひとりを大切に、最後の最後まで責任を持って取り組んでいく決意です。

4. ヴォーリズ・エデュケアセンター (Vorles EduCare Center)

2020年度、エデュケア事業における最大の課題は新型コロナウイルス感染症予防の対策でした。マスクをつけることが不可能な乳児への対応をはじめ、「密」を回避する対策に苦慮した一年となりました。「危険だから止める」のではなく、日常の生活の流れを見直す、諸行事の

形式を変更するなど、それぞれの園所において知恵を尽くして教育・保育活動を実施しました。保育士は「エッセンシャルワーカー（人々の日常生活において必要不可欠な仕事を担う人）」であり、担い手となる職員のメンタル・ヘルスケアが次の課題でした。職員の指導・助言者として直接的に関わりをもつ管理職が2度の研修を受講し、職場環境の改善に向けた取り組みを行いました。各園における総括は以下の通りです。

○ヴォーリズ・エデュケアセンター本部

育児介護休業法に伴う休暇・休業制度の拡大と、契約職員に対し一般職員と同様の福利厚生（法定外手当）の充実を図るため、就業規則と給与規程の変更を行いました。また、2022年度に勤怠システムが本格稼働となることから、各園での働き方の見直しを致しました。新型コロナウイルス感染症による国の施策である制度「小学校等の臨時休業に伴う保護者の休暇取得支援のための新たな助成金」を利用し、休まざるを得ない職員の休業補償を行いました。

○近江兄弟社ひかり園

「幼児期の終わりまでに育んでほしい10の姿」（幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園要領共通事項）を日常の保育活動、子ども達の姿と重ね合わせ、保育の見直し、質の向上に努めました。

○もりの風こども園

コロナ禍において、新しい考え方や方法を見出し、教育・保育を見直す機会となったことで、学園訓「地の塩・世の光」の意味を職員で再確認し、それを理解して実践することができました。また、働き方改革として、業務のスリム化を図り、勤務時間を意識し働くことができるよう環境を整えました。スクールバス廃止や延長保育時間短縮、教材費の見直しなど新しい制度や情勢に合わせ運営の改善に努めました。

○そらの鳥こども園

園内研究の担当チームが中心となり、「子どもの主体性」をテーマに園内研究に取り組みました。今年度は各学年で子どもの現状把握、目指す姿、環境構成や関わりについて考え、成果と課題をまとめました。この取り組みを通して、保育者の子どもを見る視点の醸成と保育者の関わり大切さ、保育のおもしろさをつかむことができました。このことが保育の質向上と離職防止につながるよう、今後も継続して取り組んでいきたいと思えます。

○金田東保育園（本園・分園）

8月に本園保育室前廊下と幼児手洗い場2カ所の改修工事を行いました。工事期間中は近江兄弟社小学校に協力をして頂き、3～5歳児の幼児組の保育を行い、0～2歳児乳児組は分園にて合同保育を行いました。これらの日頃と違う環境の中での保育は保育者にとっても園児においても「学び」の機会となりました。

○安土保育園（本園・分園）

職員の労働環境の整備に重点を置き、業務の効率化、行事の見直しなどに取り組みました。内部・外部研修による学びの機会を持ち、一人ひとりの資質の向上、自己肯定感の向上をはかり保育内容を充実していけるよう努めました。新園舎の整備事業について一歩前進することができました。

○安土こどもの家（安土学童ひまわりクラブ）

今年度定員90名のところ106名の児童が在籍しました。コロナ禍にあり不安が続きましたが、児童・保護者・職員が協力し合いながら過ごすことができました。

○ふるたか虹のはし保育園

保育所民営化より2年が経過しました。守山市との協定書に従い、引き継いだ園行事や保育内容を丁寧に実践する事ができました。保護者による利用アンケートでも、2019年度は民営化に対する不安の声が多くありましたが、2020年度は、ヴォーリズ学園で良かったとの肯定的な

意見が多くあり、一定の評価を得ることができました。施設整備はほぼ完了し、乳児の砂場整備、ウッドフェンス設置（移動可能）を行い、子ども達が安全に園庭で遊べる環境を整えました。

○物部・小津・玉津児童クラブ室

3 学童合同の主任の会議の定例化を図り、月 1 回実施をすることができました。お互いの課題を共有したり、子どもの育ちについての情報交換、新型コロナウイルス感染症への対応、学童保育での子どもの育ちなどお互いが学び合う良い機会となりました。学童保育は年々利用者が増加し、どの学童においても場所の確保が課題となっています。また夏休みだけの利用もあり、季節学童の受け入れは小学校の教室を借りなければならない状態で、増える利用者に対しての対応も今後の大きな課題です。

Ⅲ. 財務報告（2020 年度財務状況概要）

(1)資金収支計算書

学校法人の当該会計年度の諸活動に対する、すべての収入・支出の内容を明らかにするものです。

①資金収入

(単位千円)

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
学生生徒納付金収入	1,165,875	1,238,645	1,206,703	1,151,434	1,176,403
手数料収入	34,345	32,247	32,527	32,921	32,613
寄付金収入	129,781	21,133	48,803	31,839	19,203
補助金収入	1,464,665	1,397,403	1,756,736	1,607,069	1,711,254
資産売却収入	0	0	0	0	0
事業収入	108,304	112,018	109,236	119,056	132,337
受取利息・配当金収入	1,141	17	40	176	221
雑収入	70,969	81,736	76,551	42,455	50,956
借入金等収入	883,000	17,000	582,400	0	0
前受金収入	107,500	99,590	101,880	110,180	106,950
その他の収入	840,299	577,637	214,343	478,128	153,126
資金収入調整勘定	△503,272	△315,567	△568,627	△222,374	△254,270
前年度繰越支払資金	365,073	607,762	631,552	850,215	907,831
収入の部合計	4,667,683	3,869,623	4,192,147	4,201,104	4,036,628

②資金支出

(単位千円)

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
人件費支出	1,702,615	1,869,574	1,904,102	1,995,722	2,063,333
経費支出	605,785	692,645	697,968	664,161	668,279
借入金利息支出	13,404	14,189	13,566	12,582	10,580
借入金返済支出	148,918	300,763	83,316	425,269	120,226
施設関係支出	1,311,034	228,529	577,371	28,954	17,186
設備関係支出	63,098	27,621	99,309	17,728	25,231
資産運用支出	150,090	100,000	50,000	50,000	50,000
その他の支出	144,551	86,644	90,624	173,777	117,306
資金支出調整勘定	△79,577	△81,897	△174,327	△74,924	△76,236
翌年度繰越支払資金	607,762	631,552	850,215	907,831	1,040,720
支出の部合計	4,667,683	3,869,623	4,192,147	4,201,104	4,036,628

(2)事業活動収支計算書

区分経理の考え方が取り入れられ、学校法人の活動内容ごとに収支状況を明らかにするものです。

(単位千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動収入	2,844,663	2,872,041	2,963,175	3,117,877
教育活動支出	2,821,107	2,861,533	2,958,987	3,026,743
教育活動収支差額	23,555	10,507	4,188	91,134
教育活動外収入	17	40	176	221
教育活動外支出	14,189	13,566	12,582	10,580
教育活動外収支差額	△14,172	△13,525	△12,406	△10,359
経常収支差額	9,382	△3,017	△8,218	80,775
特別収支差額	39,116	382,958	23,248	8,074
基本金組入前当年度収支差額	48,498	379,940	15,030	88,850
基本金組入額	△619,167	△191,757	△505,035	△204,711
当年度収支差額	△570,668	188,183	△490,004	△115,861

(3)貸借対照表

年度末における資産、負債、純資産（基本金、繰越収支差額）の状態すなわち財政状態を表示するものです。

(単位千円)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
資産の部					
固定資産	5,709,491	5,657,799	6,149,004	5,955,698	5,756,170
有形固定資産	5,553,972	5,552,218	5,993,390	5,742,579	5,494,559
特定資産	150,000	100,000	150,000	200,000	250,000
その他の固定資産	5,518	5,581	5,614	13,118	11,610
流動資産	1,066,886	898,243	1,372,868	1,086,164	1,235,433
資産の部合計	6,776,377	6,556,043	7,521,872	7,041,862	6,991,603
負債の部					
固定負債	1,323,744	1,259,020	1,426,546	1,301,054	1,196,293
流動負債	553,734	349,624	767,987	398,438	364,090
負債の部合計	1,877,478	1,608,645	2,194,534	1,699,493	1,560,383
純資産の部					
基本金	7,236,880	7,856,047	8,047,805	8,552,840	8,757,551
繰越収支差額	△2,337,981	△2,908,650	△2,720,466	△3,210,471	△3,326,332
純資産の部合計	4,898,898	4,947,397	5,327,338	5,342,369	5,431,219
負債及び純資産の部合計	6,776,377	6,556,043	7,521,872	7,041,862	6,991,603